八戸市新美術館整備基本構想

（案）

平成２８年　月

八　戸　市

■目 次

（ページ）
１．新しい美術館のビジョン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １
　１）基本理念
　２）目指す都市像

２．新しい美術館のミッション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ２
　１）基本方針
　２）事業展開の基本的な考え方

３．新しい美術館のアクション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４
　１）事業展開
　２）施設整備方針
　３）組織運営方針

４．新しい美術館の整備プラン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
　１）整備スケジュール
　２）整備事業費
　３）建築設計者の選定
　４）整備に向けた取組

◆参考資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
　１．用語解説　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１７

　２．八戸市の概況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

　３．八戸市美術館の活動状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・

　４．新しい美術館の整備に関する参考データ　・・・・・・・・・・

１　新しい美術館のビジョン

「アート・エデュケーション・ファーム」
～種を蒔き、人を育み、100年後の八戸を創造する美術館～

私たち市民の新しい美術館は、アートが中心にある環境で人を育む美術館です。

現在の八戸市美術館は、多くの市民の長年にわたる願いのもと、昭和61年に開館し、市民とともに成長し発展していく美術館として運営されてきました。また、近年の市の動きとして、「アートのまちづくり」事業や、八戸ポータルミュージアム「はっち」のアートプロジェクトなど、地域性をテーマに、アートが持つ力で市民一人一人がまちづくりの主役として活躍する取組を展開しています。

新しい美術館は、これまで積み重ねてきた活動実績を踏まえながらも、これまで以上に「人」と「地域性」にこだわります。そして、アートが持つ力によって市民一人一人の感性や創造力が高まることが、八戸を面白いまちに創りかえるエンジンになるとの信念を持ち、今の八戸に生きる人や将来八戸に暮らす人たちの「畑」に様々な「種」を蒔き、本来の「エデュケーション」の考え方によって成長を促し、実らせていきます。このサイクルを50年・100年先の八戸の姿を見据えて戦略的かつ経営的な視点で回していく、「ファーム」としての美術館運営を目指します。

１）　基本理念

・アートが中心にある環境で種を蒔き、人を育み、美術館も共に成長しながら、八戸の新しい文化や価値を創造します。
・様々なアート活動が実を結び、世界に花開くよう、土壌づくりを積極的に展開し、市民一人一人の感性が響きあうまちづくりに貢献します。
・アートの文脈で地域社会を捉えなおし、八戸の人や文化を世界へ発信します。
・アートを主軸とした人づくり・まちづくりを、長期的な視点で戦略的に推進します。

２）　目指す都市像

・ひと・産業・文化が輝く北の創造都市（第6次八戸市総合計画）
・文化芸術を通して市民が生き生きと心豊かに暮らせるまち、文化芸術の力を活用した魅力あふれるまち、八戸の実現（八戸市文化のまちづくりビジョン）

２　新しい美術館のミッション

１）基本方針

新しい美術館のビジョンを具現化するためのミッションとして、次の８つの項目を設定します。

①「本物」の美術と向き合える、心を揺さぶる美術館

・展覧会等を通じて優れた作品を鑑賞でき、誰もが「本物」に容易に触れられる機会を提供します。

・身近にアートの本質や魅力に触れることができ、感性が刺激される体験機会を提供します。

② 地域の「宝」を「記録」に残して後世にわたす美術館

・収蔵作品や有形・無形の文化遺産、情報などが途絶えることのないよう、適切に保存・継承します。

・これまでの作品に加え、今行われている様々なアート活動やそこから生み出された新しい価値・資源などを体系的に整理・記録し、後世へ継承します。

③「地域性」にこだわり、八戸を世界とつなぐ美術館

・日常生活に潜む「美」をアートの力で可視化・資源化し、八戸固有の文化やシビックプライドを、アートの切り口で世界に向けて発信します。

・八戸ゆかりの美術作品や歴史・暮らしの根源に、地域の人々と一緒に迫っていくような調査研究から、世界につながる普遍性を見出し、共有します。

④ 文化をつくり、まちをつくる人を育む美術館

・市民やアーティストの多彩な創作･表現活動の場や発表の場を提供します。

・他者の視点や感覚を自分に置き換える力を持ち、まちの「関心事」を「自分事」に変換してまちを動かす人や、従来とは全く違う新しい視座でまちに新しい価値や関係性を生み出す人を育て、活動する場を創出します。

⑤生きたコミュニケーションの場と、出会いを生み出す美術館

・作品と人、活動と人、人と人とのつなぎ手を育てながら、様々な出会いと化学反応が起こるフラットなコミュニケーションの場を創出します。

・アート活動を介したいろいろな人々との交流や関わりの中から、家庭や学校、職場などでは得られないような生きる力を体得できる環境を創出します。

⑥アートが身近にある暮らしを提案する美術館

・家庭や学校、職場、横丁など、市内のあちこちでアートが話題となるような、アートがある生活が当たり前になる環境を創出します。

・日常生活の中に、アートを自分には疎遠なものと思い込んでいる人も共感できる非日常的な仕掛けを創出します。

⑦活動フィールドにこだわらない、飛び出す美術館

・高い機動力を持って、商店街や学校、「フィールドミュージアム」の各エリアなどを舞台に、活動のみならず人的交流も含めた双方向的な活動を展開します。
・市内はもとより、歴史的背景から同じ文化圏にある近隣市町村や県内市町村、北東北の各圏域と密接なつながりを持ち、連携した取組を展開します。

⑧八戸の文化をひとつの大きな「輪」にむすぶ美術館

・様々なジャンルのアート活動や市民の多様な文化活動が混ざり合い、新たな活動へと発展するよう、交流の場を創出します。
・八戸の様々な文化や歴史、自然などを背景に、市内外の多様な人々が交流し、八戸でしかつくり得ない作品が生み出される環境を創出します。

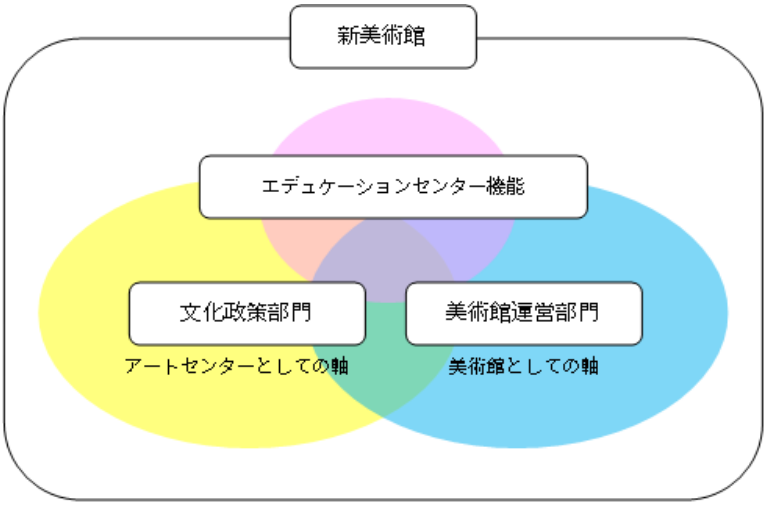
2）事業展開の基本的な考え方

当市の「アートのまちづくり」の中で展開されている様々な取組の再編集・再構築を進めるともに、組織の再編も視野に入れ、より効果的に事業を展開するため、新しい美術館には、従来の「美術館運営部門」と、八戸の文化全体をどのような姿にしていくのかを考え発信する司令塔としての役割を担う「文化政策部門」を同居させ、「美術館」と「アートセンター」の両方の軸を併せ持つ美術館としての運営を図ります。

また、「アート・エデュケーション・ファーム」をテーマに掲げ、人も美術館も互いに刺激し合いながら感性を高め、自ら感じ取り、育まれていく「共育（きょういく）」を特長としていることから、アートが中心にある環境で人を育む「エデュケーションセンター」としての機能を持つ美術館としての運営を図ります。

新しい美術館については、現在の美術館と同様に、博物館法における「博物館相当施設」としての要件を備えた整備を検討します。

＜新美術館の事業展開イメージ＞



３　新しい美術館のアクション

１）事業展開

新しい美術館のビジョンを踏まえ、ミッションを実現するための特徴的な活動として、次に掲げる事業を展開します。（各事業のイメージをわかりやすく伝えるために、これまで行ってきた取組や他都市の事例を参考にした事業例を掲載していますが、実際に実施する事業内容については、今後の計画において検討を行います。）

①調査研究事業

八戸の文化を継承していくという観点から、八戸にゆかりのある作家や作品、その理解につながる関連作品等の歴史的背景・社会的背景を整理し、美術館の活動に説得力を持たせるための調査研究を行います。

また、成果を美術館活動に活かし、広く市民に還元します。

（想定される事業例）

・収蔵作品や作家を中心とした幅広い調査研究

・フィールドワークによる地域資源の掘り起こし　など

②収集保存事業

これまでのコレクションポリシーを踏まえながらも、現在の収蔵作品に加えることで、美術館活動の厚みを増すことにつながる作品の収集を行います。

また、収蔵作品のほか、新しい表現やアートプロジェクト等、形として残らない作品や活動などをデジタルアーカイブ・データベース化し、誰でも容易にアクセスできるよう、活用を図ります。

（想定される事業例）

・地域にゆかりのある作家や作品を中心とした収集活動

・収蔵作品や関連作品等に関するデータベース作成　など

③展示事業

郷土を知る手がかりが得られ、シビックプライドの醸成につながる、地域性をテーマとした企画展や、収蔵品を活用した常設展示を行います。

また、本物の優れた作品と出会える場として、話題性のある特別展や大型巡回展等を関係機関等の協力を受けて行うほか、美術館がある中心街の文化施設や民間ギャラリー、商店街等との共同による、まちの回遊性向上につながる企画展や、近隣市町村や県内の美術館と連携した取組などを行います。

（想定される事業例）

・他の美術館等と連携した国内外の優れた作品などによる企画展

・調査研究活動の成果と収蔵作品を活かした常設展示

・スタンプラリーなど中心街のまち歩きと絡めた企画展

・県内美術館との連携によるミュージアム・バスツアー　など

④教育普及事業

鑑賞者相互のコミュニケーションを誘発する対話型鑑賞プログラムなど、鑑賞者の能動的な作品鑑賞をサポートし、感じ取る力や考える力を育てるための取組を行います。

また、学校や福祉施設へ学芸員を派遣するアウトリーチ活動のほか、教員や子育て中の親を対象としたワークショップ・セミナーなどのインリーチ活動を展開します。

さらに、子どもから大人まで、世代間で交流しながら多様化する表現方法やアートの魅力に気軽に触れられる取組を行います。

（想定される事業例）

・小・中学校の美術鑑賞教室の受け入れ（教育普及員によるギャラリートーク）
・学校などに本物の作品を持ち込んで対話型鑑賞プログラムを行う「お出かけ美術館」
・学校の美術の先生などを対象とした研修会
・「０歳からはじめる美術鑑賞」、「おじいちゃん・おばあちゃんとアートで遊ぼうワークショップ」　など

⑤市民活動支援事業

活発に展開されている市民の創作活動の発表の場として市民ギャラリーを設けるとともに、ワークショップや貸し工房、専門書を揃えたライブラリーなど、市民の「つくりたい」意欲に応え、新しいアイディアを生み出すヒントが得られるような取組を行います。

また、美術館と来館者のつなぎ手となる市民サポーターを対象とする講習・研修会の開催や、市民サポーター企画の実施を促す取組を行います。

（想定される事業例）

・市民ギャラリーでの市民の作品展示
・学芸員や市民サポーター、学校の先生などを講師とした定期的な美術講座
・ライブラリーの専門書を教材とした、コンセプトづくりや新しい発想法を体得できるセミナー
・市民サポーターが美術館及び中心街のアートスポットを案内して回るツアー　など

⑥地域資源活用事業

市全体を活動フィールドに、これまで地域の宝と意識してこなかったような風景やものをアーティストの視点で捉え直し、日常に気づきをもたらしたり、新たな地域の資源として再認識を促していくような、八戸固有の文化や人の魅力などの地域資源を美術館的アプローチで可視化する取組を行います。

（想定される事業例）

・アーティストを招聘しての、八戸の自然や郷土芸能、人などの地域資源をテーマとしたアートプロジェクト・企画展
・ゲストキュレーターによる、地域資源や収蔵作品を独自の視点で再構成して見せる企画展　など

⑦創造産業支援事業

市内三大学をはじめとする高等教育機関や企業等と連携してのゼミ・プロジェクトの誘致など、創造産業の創出・支援につながる取組を行います。

また、伝統工芸作家や手仕事人など、新進気鋭の作家の発掘や、八戸の「つくり手」たちの後押しにつながる取組を行います。

（想定される事業例）

・市内三大学と企業、アーティストやデザイナーの共同による、地域資源を活かした新製品開発プロジェクト
・創造産業分野における、インターンシップを含めた大学生と企業とのマッチング・セミナー
・市内三大学の先生方を講師陣とする、伝統工芸作家や新進気鋭の作家を対象とした起業家養成講座　など

⑧アートのまちづくり推進事業

市の文化政策部門を新しい美術館の中に移し、美術をはじめとする様々な分野における文化の担い手の活動支援や、文化芸術が持つ創造性で教育や福祉、地域コミュニティなど様々な分野を横串し、まちの活性化や人材育成につながる取組を行います。

また、市内外の方々に八戸の文化を体系的に理解し八戸の魅力を感じていただけるよう、市内文化施設と相互連携した取組を行います。

さらに、様々な広報媒体や国内外の創造都市とのネットワークを活用しながら、美術館活動のみならず、八戸の文化芸術活動やまちの魅力を総合的に情報発信します。

（想定される事業例）

・「八戸市文化のまちづくりビジョン」に掲げる各取組の推進
・多文化都市八戸推進事業（市民の文化活動に対する補助金など）
・美術館活動や市内のアート活動に関するフリーペーパー発行　など

２）施設整備方針

①建設予定地

地方都市においては自動車交通に依存している状況であり、今後、超高齢化と人口減少が予測される中では、駐車場と公共交通の利便性は、大きな立地条件となります。新しい美術館が、市民に開かれた誰でも気軽に利用できる施設となるためには、アクセスのしやすさは重要な要素の１つであり、バスや鉄道といった公共交通機関の利便性が高く、民間駐車場が多数整備された中心街は、郊外に比して優位な環境にあります。

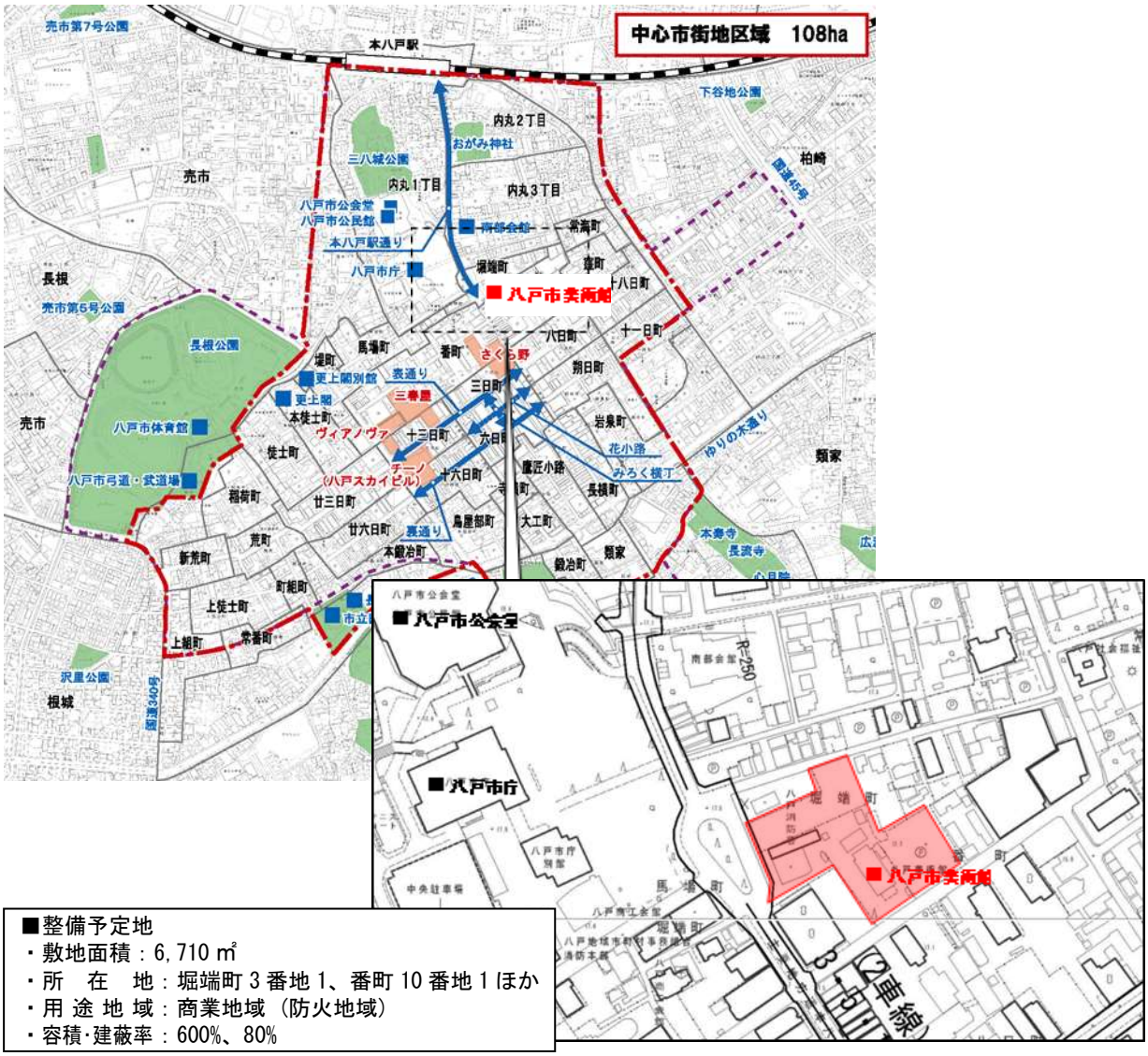
また、現在の美術館周辺は、行政機能の郊外移転によって生じた未利用市有地が隣接しており、用地取得の容易さや、公的不動産の有効活用といった観点からも現在地周辺は適地であると考えられます。

さらに、公会堂や「はっち」などの文化・観光施設や、中心商店街、横丁などと近く、美術館を中心とした観光面での発展性も見込めます。

これらのことから、新しい美術館は、現在の美術館が立地する中心街での整備を検討します。

なお、整備予定地については、次に掲げる現在の美術館が立地する敷地及び市有地の活用を基本としますが、隣接する民有地の活用も視野に入れて検討します。

＜整備予定地＞



②立地特性に基づく整備方針

新しい美術館は、公会堂･「はっち」等の公共施設や、民営の美術館･ギャラリー･ホールなどの中心街に集積する文化芸術施設との連携を強化し、中心街を八戸の文化創造・発信の中心地へと発展させることを目指します。

また、中心街に立地する特性を活かし、駅やオフィス、商店街、横丁、学校等との回遊性を意識した整備を検討します。

＜文化芸術関係施設を核とした中心市街地集積図＞

③建物の規模と必要な機能について

建物の延床面積は、現在の美術館（1,446㎡）の２～３倍以上となる3,500～4,500㎡程度を確保することを想定します。

また、建物の意匠は、八戸の気候や風土等を考慮して地域性に配慮されたものとし、ユニバーサルデザイン対応や維持費の圧縮にもつながる環境に配慮した省エネ構造のものを想定するほか、無料スペースと有料スペースを巧みに配置して、美術館の作品を見なくても美術館の雰囲気を誰でも気軽に楽しめる空間整備を目指します。

美術館に必要とされる諸機能については、施設管理のしやすさ、使い勝手の良さを重視し、一般利用者及び関係者の利用ゾーンを適度に区分したシンプルな動線計画を行うとともに、それぞれの役割に応じた適切な規模の配置を計画します。

必要な機能として、次に掲げる諸室の整備を検討します。

・特別展や企画展を行うに十分な規模で、様々なジャンルへの対応を可能とするフレキシブルな使い方ができる展示室
・多種多様なジャンルで活発に行われている市民の文化活動発表の場として、市民ニーズ

に対応した市民ギャラリー
・作品の展示替えを容易に行うことができ、小規模でも開放的で、誰でもいつでも気軽に作品に触れられる常設展示スペース
・現在保有する全ての作品に加え、今後新たに収集する作品を収蔵可能な規模で、地震、紫外線及び酸性物質等への対策や、適切な温湿度管理がなされた収蔵庫
・市内三大学をはじめとする高等教育機関のゼミや研究活動、大学と企業との共同プロジェクト活動等が行えるプロジェクトルーム、デザインラボ（創造産業支援スペース）、創作活動室（工房兼ワークショップスペース）
・鑑賞前後やイベント時の歓談・休憩での利用、簡単な打合せでの利用のほか、美術館の雰囲気に浸ることができる市民交流スペース
・市民交流スペースに併設または独立した構造の、アートプレイルーム（キッズルーム）や、アート・デザイン関係を中心とする専門書を配架するライブラリー、インフォメーション、ミュージアムショップ、カフェ、収蔵品に関するデータベースや全国の美術館・アートプロジェクト等に関する情報コーナー
・市民ギャラリー利用者控室、会議室兼市民サポーター活動ルーム、授乳室、多目的トイレ、館長室、事務室、警備員室、倉庫等
・作品の搬入・搬出のためのトラックヤードの整備
・貸館利用者やアーティストなどの関係者が使用できる駐車場の整備
・学校の授業の一環としての美術鑑賞の受け入れや、バスツアー客受け入れのための大型バス発着所・駐車場の整備

④屋外空間について

道路から建物に至るまでの空間が「日常から離れ、美術館に入る期待感を高める雰囲気」であり、帰りには「日常に戻るまでの余韻に浸れる雰囲気」となる屋外空間の整備を検討します。

また、「登下校時に学校と駅の途中」や、「仕事終わりにオフィスから横丁へ飲みに行く途中」などで敷地内を通り抜けた際に、美術に容易に触れられる場があることにより、学校や飲みの席などで美術が話題となるような効果を狙った歩行者の導線確保や空間整備を検討します。

さらに、美術館を目指して来訪される観光客はもとより、周辺のホテルに宿泊するビジネス客が立ち寄りたくなるような屋外空間の整備を検討します。

必要な機能として、次に掲げる機能整備を検討します。

・まちのシンボルとなっている市庁前ロータリー側から、美術館の鑑賞空間へ向かうアプローチに相応しい空間整備
・作品鑑賞を目的に来館される方のほか、偶然通りかかった人も美術館の雰囲気を気軽に楽しめる広場の整備
・中心市街地に不足する緑を補い、都市景観の向上と、周辺の三八城公園やマチニワなどとの緑のネットワークを形成する公園のような安らぎが感じられる空間整備

⑤諸機能の整備イメージ

諸機能については、「八戸市美術館改修パターン検討業務報告書（平成27年２月）」において類似規模の施設との比較検討により算出した値をもとに、下記のとおり設定します。

機　能	細　分	整備イメージ
共用機能	通路等 （約1,000㎡～1,500㎡）	・エントランスホール、市民交流スペース、会議室、廊下、階段、トイレ、エレベーター、倉庫、授乳室などを設けます。
	サービス （約250㎡）	・アートプレイルーム、ミュージアムショップ、カフェ、インフォメーションなどを設けます。 ・アート、デザイン関連書籍を充実させたライブラリーに、収蔵品データベースや全国の美術館･芸術祭に関する情報コーナー等を設けます。
展示収蔵機能	展　示 （約750㎡～1,000㎡）	・展示室は、適正な展示環境を維持し、様々な形態やサイズの作品展示に対応可能な汎用性の高い空間とします。 ･企画展等の開催期間中においても収蔵品を常時展示できるよう、常設展示専用スペースを確保します。 ・昨今の大型作品にも対応可能な天井高（５～10m程度）とします。
	市民ギャラリー （約400～500㎡）	・市民ニーズの高まりを受け、企画・常設展示室とは別に、現行規模程度の市民ギャラリーを設けます。 ・市民ギャラリーは、グループ展や個展などを通じて、創作活動の成果を発表できるスペースとします。 ・主催者控室等も配置するなど、利便性の向上を図ります。
	収　蔵 （約500㎡～1,000㎡）	・収蔵庫には前室を設け、収蔵品を適切に保管します。 ･作品の搬出入のために十分な広さのトラックヤードや荷解き場を設置します。 ・作品の運搬動線は水平移動を基本とし、通路幅員も適切な幅を確保します。
エデュケーションセンター機能	教育普及 （約200㎡～400㎡）	・プロジェクトルーム、創作活動室、研修室などを設け、ワークショップや実技講座など多様な創作活動や研究活動が展開できる機能を確保します。
管理機能	管　理 （約100～200㎡）	･館長室、事務室などを設けるとともに、会議室と兼用で市民サポーターなど支援組織のメンバーが活動するためのスペースを確保します。
	設　備 （約250㎡）	・監視室、空調機械室、電気設備室、給排水設備などを設けます。
合計	約3,500～4,500㎡	
屋外空間	外構	・まちのシンボルとなっている市庁前ロータリー側から、美術の鑑賞空間へ向かうアプローチに相応しい空間とします。
交通施設	駐車場	･駐車施設及び駐輪場については、市庁舎や公会堂等の公共施設や周辺の民間駐車場の状況等を勘案しながら、さらに検討を進めます。

※面積算出の検討で用いた数値データは参考資料に掲載

３）組織運営方針

①運営・事業推進体制について

新しい美術館の整備にあたり、開館後の運営体制を想定した形で、ディレクター的立場の人材や教育普及員（エデュケーター）等の専門職員を確保しつつ、計画初期の段階から各役割を担うスタッフが参画し、計画策定やオープンに向けた準備などを行いながら、運営体制を構築していきます。開館後の運営形態については、当面の間、現在の美術館と同様に市直営を想定して準備を進めますが、新しい美術館のミッションを遂行するために最適な美術館の運営形態や組織のあり方について、新美術館の整備と並行して検討します。

また、美術館の運営に対して有識者や市民の方々からご意見をいただく場として設置している美術館運営協議会については、美術館運営に対してより影響力を発揮する外部評価機能であるアドバイザリーボードとしての組織再編を検討します。

さらに、市民協働による美術館運営のため、作品解説や館内案内、招聘アーティストの活動サポートや自主企画を行う市民サポーターの組織化を検討します。

②各施設・団体等との連携体制について

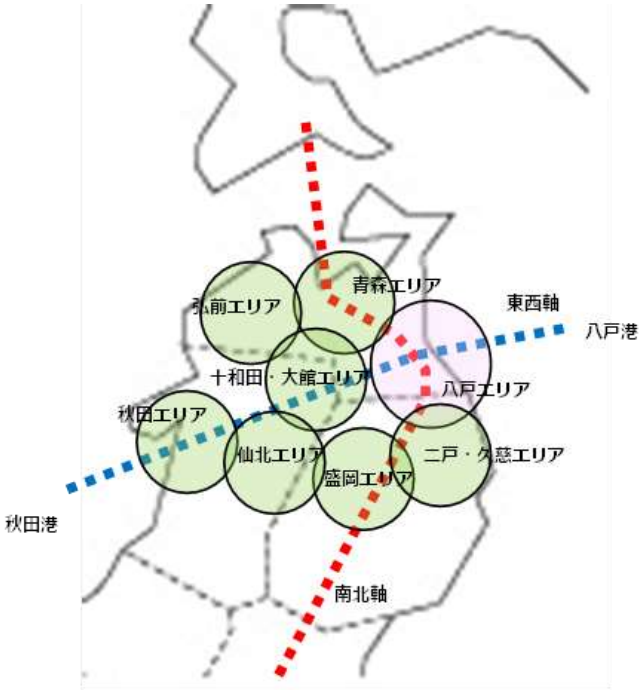
新しい美術館はエデュケーションセンター機能を備えることから、市内三大学をはじめとする教育機関との連携を図るとともに、中心街活性化を担う側面もあることから、中心街の回遊性を高めるため、商店街や近隣の文化施設、まちづくり関係団体等との連携を図ります。特に、アートプロジェクトなどの特徴的な事業を行っている「はっち」は、賑わい創出、文化芸術振興、ものづくり振興、観光振興を横断的に展開している「ポータル（入口）」ミュージアムであり、きっかけづくりの場となっていることから、新しい美術館は、熟成の場として、「はっち」の集客力や発信力を活かした連携を図ります。

また、市の観光戦略である、市全体を屋根のない博物館に見立てた「フィールドミュージアム構想」において、中心街は「センターミュージアム」に位置することから、新しい美術館もその一翼を担う施設として、観光振興にも寄与します。

さらに、市内はもとより、「連携中枢都市圏」を形成する近隣市町村や、美術館などの文化施設を各とした創造的事業が展開されている北東北三県の各エリアとの連携を強化し、共同事業や人材交流が行える体制の整備を検討します。

＜フィールドミュージアム八戸構想図＞

＜北東北三県の創造都市ネットワーク図（案）＞



〇各エリアにおける主な文化芸術拠点・取組等

・八戸エリア･･･八戸市美術館、八戸ポータルミュージアム「はっち」、南郷アートプロジェクト等

・青森エリア･･･青森県立美術館、国際芸術センター青森（ACAC）、王余魚沢（かれいざわ）倶楽部等

・弘前エリア･･･吉井酒造煉瓦倉庫（美術館改築）、NPO 法人harappa等

・十和田・大館エリア･･･十和田市現代美術館、ゼロダテ等

・二戸・久慈エリア･･･二戸シビックセンター（福田繁雄デザイン館）、アンバーホール等

・盛岡エリア･･･岩手県立美術館、いわてアートプロジェクト等

・仙北エリア･･･たざわこ芸術村、創造農村等

・秋田エリア･･･秋田県立美術館、あきたアートプロジェクト等

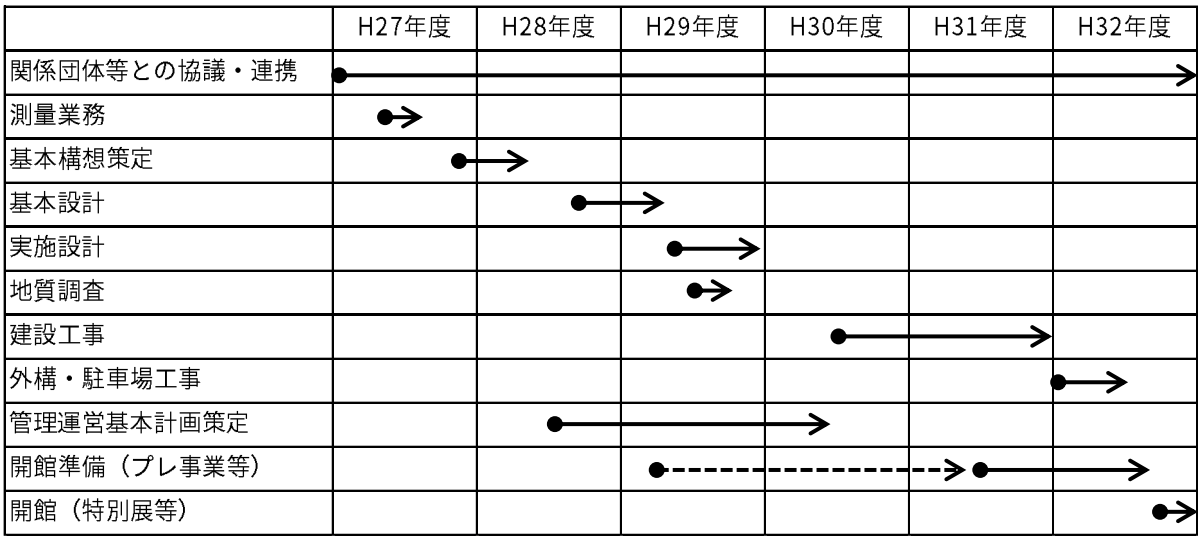
4　新しい美術館の整備プラン

1）整備スケジュール

美術館周辺の市有地は、八戸市中央駐車場建替え事業に伴い、代替駐車場として平成30年度上半期まで使用中であることから、平成30年度夏以降に建設工事を行うスケジュールとします。

なお、美術館周辺の市有地の一部については、埋蔵文化財の包蔵区域（八戸城）であることから建築工事に着手する前に試掘調査（試掘状況によっては発掘調査）が必要となります。

・平成27年度　　：用地測量
・平成28年度　　：基本構想策定、基本設計
・平成29年度　　：基本設計（前年度継続）、実施設計業務、現美術館解体、地質調査
・平成30年度以降：旧消防庁舎・旧交通安全協会解体、建築工事（2ヵ年程度と想定）
・平成32年度　　：開館準備、供用開始



※関連事業
　八戸市中央駐車場建替え事業
・事業期間：平成 27 年度～平成 30 年度
・事業目的：耐震診断の結果、倒壊や崩壊の危険性が高いと判定されたことから建替えを行うもの
・駐車台数：443 台（建替え前）

２）整備事業費

新美術館は、計画地内の既存建物を解体除却した上で、事業を行う計画であり、総事業費については、今後の設計等の段階で、詳細に検討を行います。

なお、整備にあたっては国の制度を活用することとし、市の費用負担の圧縮に努めます。

〇財源の内訳（活用可能な国の事業制度）

制度名称	社会資本整備総合交付金事業（国土交通省）
事業名称	都市再生整備計画事業（都市再構築戦略事業・人口密度維持タイプ）
対象経費	立地適正化計画に定める都市機能誘導区域内において、教育文化施設のうち博物館相当施設（博物館法第29条）の整備に要する経費
国 費 率	１／２

※類似施設の整備事例

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

・開館時期：平成 23 年 7 月
・構　　造：１階鉄筋コンクリート造＋２階鉄骨造
・館内機能：展示、教育普及、収蔵、調査研究、共有、管理、設備機械
・敷地面積：13,752.55 ㎡
・建築面積：　2,602.98 ㎡（延床面積 4,593.82 ㎡）
　　1FL 2,408.19 ㎡、2FL 2,185.63 ㎡
・駐 車 場：普通車 86 台、大型バス 6 台、障がい者用 3 台
・工 事 費：2,104 百万円
　　本体 987 百万円、電気 181 百万円、
　　空調 236 百万円、給排水 135 百万円、収蔵庫 57 百万円、
　　昇降機 32 百万円、展示 287 百万円、外構 189 百万円
・建物工事費：1,628 百万円（展示・外構除く）※建設単価：117.3 万円/坪

３）建築設計者の選定

設計者の選定方法は、以下のとおりの方式がありますが、美術館改修事業は、事業規模が大きく、きわめて公共性の高い施設です。

また、周辺の景観と調和するとともに都市の象徴となる施設に相応しいデザインとするため、優れた創造性と高度な技術力を有する設計者の創意工夫によって、質の高い設計を行うことが求められます。

このため、設計者の選定については、今後最適な方法を検討していきます。

４）整備に向けた取組

新しい美術館の整備にあたり、計画段階からより多くの市民の意見が反映されるよう、シンポジウムやワークショップ等を随時開催していきます。

また、オープンに向けて市民の一体感の醸成につながるプレ事業の実施を検討するとともに、効果的な広報と情報発信を行います。

参 考 資 料

１．用語解説

・アート

　単に「美術、芸術」を言い換えた言葉ではなく、様々な表現活動や創造的活動、物事に対する考え方など、広義の意味での「美術、芸術」を指す。

・アートプロジェクト

　ここでは、「アート」の持つ創造性を活かして、市民や関係団体、アーティストなどが協働し、地域資源をテーマとしたまちの課題解決や活性化を図る取組のことを指す。

・アウトリーチ

　もともとは「手を伸ばす」との意味で、美術館においては、日頃美術館に来られない方々や美術作品鑑賞の機会が少ない方々の体験機会を増やすために行う「出張ワークショップ」などの事業を指す。

・アドバイザリーボード

　有識者・学識経験者等で構成され、美術館運営に対する助言や、事業評価と新たな展開についての助言など、運営側とは独立した立場で館の運営を側面からサポートする諮問機関。

・インリーチ

　美術館活動について理解を得るために行う、現場の関係者や職員等を対象とした関係者向けワークショップのこと。

・エデュケーション

　上から下へ一方的に教えて育てる「教育」ではなく、自ら感性を高めたり、自分なりの表現方法を見つけられるよう、寄り添い、時には見守るような、個性を引き出す育ての手法。

・シビックプライド

　市民が、自分が住むまちに対して抱く誇りや愛着心。自分もまちをより良くするための１人であると認識し、自発的にまちづくりに参加しようとする気持ちのこと。

・創造都市

　文化芸術の持つ創造性を活かした産業振興や地域活性化の取組を、地域住民やアーティスト、関係団体、企業、大学、行政などが一体となって戦略的に展開することで発展し続ける都市のこと。

・対話型鑑賞

　鑑賞者に対して、作品の解釈や知識を一方的に押し付けるのではなく、鑑賞者が作品を見た時の率直な感想や感覚を重視し、対話しながらの鑑賞を通して、鑑賞者の想像力やコミュニケーション力を育成する新しい鑑賞方法。

・デジタルアーカイブ

収蔵作品や資料などのデジタルデータをデータベース化したもの。有形・無形の作品を半永久的に保存できるとともに、インターネット等の活用により、本来そこでしか見られない作品をどこからでも自由に閲覧したり、１つの作品から関連資料なども含めて容易に検索できるなどのメリットがある。

・ファーム

農場、農園。ここでは、八戸市民の「畑」に種を蒔き、成長を促し、実らせるという一連のサイクルを長期的視点で戦略的・経営的に行っていく美術館としてのイメージを持たせる言葉として使っている。

・フィールドミュージアム八戸構想

八戸市内にある自然・祭・食などの観光資源を、4つのスポットミュージアムと4つのゾーンミュージアムに分け、それぞれのミュージアムを組み合わせて八戸市全体を「屋根のない大きな博物館」とし、効果的な観光ＰＲを図る取組。